

教員養成大学学生における「野外活動」の意識に関する研究 ～教員志望者と非教員志望者に着目して～

○佐藤 修大(大阪体育大学)

松永 敬子(大阪体育大学)

鈴木 祐志(大阪体育大学大学院)

井澤 悠樹(大阪体育大学大学院)

教員養成大学 野外活動 自然体験活動 教員志望者 意識

1. 緒言

平成14年度から実施されている新学習指導要領は、「生きる力の育成」をテーマに行われている。「生きる力」とは、「変化の激しい社会で主体的に対応できる能力、自分で課題を見つけ、自ら問題を解決できる能力など、全人的な能力」と定義し、育成が課題とされている。この新学習指導要領は学力低下の原因とされ、見直しが求められていた。しかし、平成17年7月中央教育審議会義務教育特別部会は、審議会経過報告として、継続して「生きる力」の育成と重要性を確認する報告をした。この生きる力の育成の方策として、体験活動が重要視されており、「自然体験活動」などの「野外活動」が注目されている。学習指導要領上では、学校教育における野外活動の位置づけが、学校行事として「(旅行)・宿泊的行事」「健康安全・体育的行事・旅行・集団宿泊的行事」などの項目にあてはまる。科目としては、体育科の「野外活動」と表記されており、「自然とのかかわりの深いスキー、スケートや水辺活動などの指導については、地域や学校の実態に応じて積極的に行うことに留意するものとする。」という記載がある。総合的な学習の時間においては、実施上の留意点として「自然体験やボランティア活動、就業体験などの社会体験、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。」という表記がある。そして、ほとんどの小中学校で宿泊体験学習(林間・臨海など)などの自然体験・野外活動実習が行なわれている事や、近年注目されている環境教育の一環としてなど、学校教育にとって野外活動は今後さらに深いかかわりができてくるものと考えられる。

学校で行なわれる野外活動は、組織的、計画的に、一定の教育目標を持って行われるものである。そのため、野外活動の実施には、指導者の存在が不可欠であり、指導者つまり教員の資質は、野外活動の成果を大きく左右するものである。野外活動の指導者の具体的な役割は、全体の企画・運営に携わる事、プログラムの進行や生活面の管理などの役割を指揮統括する事、特定の活動種目をするための専門的な知識や技術指導をする事が挙げられる(文部科学省青少年の野外教育の振興に関する調査研究協力者会議・報告1996)。

野外活動をより効果的かつ安全に行なうための、参加者に対する研究は数多くある。しかしながら、指導者に関する研究は少なく、特に将来の指導者である教員養成大学学生の野外活動の意識に関する研究は、中林ら(1998)が行なっているが、研究の数はあまり多くない。そのため、教員養成大学学生の意識を明らかにすることは、将来の学校教育における野外活動のために意義が大きいものといえる。しかし、教員養成大学においても、実際に教員を志望しない学生もいるため、教員免許取得後、教員を志望する者に特に焦点をあてた。

2. 研究目的

本研究の目的は、教員養成大学に在籍する学生に注目し、教員志望者、非教員志望者の「野外活動」に対する意識を明らかにすることによって、今後の学校教育における野外活動の指導者の資質を向上するための基礎的資料を得ることを目的とする。

3. 研究方法

本調査は各教員養成大学にて平成 17 年 11 月 21 日～平成 17 年 11 月 26 日に留置法（手渡し）による質問紙調査を実施した。調査対象者は A 大学体育学部学生 196 名（回収率 98.5%）、B 大学教育学部学生 79 名（回収率 97.5%）、C 大学教育学部学生 91 名（回収率 95.0%）である。分析は教員志望者の意識を明らかにするため、非教員志望者との比較分析を行なった。

4. 結果および考察

1) 調査対象者の特性

性別は 49.7%が男性、50.3%が女性となり、ほぼ同じ割合となった。次に免許取得意志は 91.0%が教員免許を取得する意志があり、9.0%が免許取得意志がないと回答し、ほとんどの回答者が免許取得意志があるという結果がえられた。しかし、教員免許の取得意志がありながら、実際に教員志望ではない学生が 34.3%を占める事が明らかになり、本研究では教員志望者 65.7%と、非教員志望者 34.5%のグループの比較分析をさらに進めた。

性別 (n=358)	男性	49.7
	女性	50.3
	計	100.0
所属大学 (n=358)	A 大学 体育学部	54.2
	B 大学 教育学部	21.8
	C 大学 教育学部	24.0
	計	100.0
免許取得意思 (n=357)	取得する	91.0
	取得しない	9.0
	計	100.0
免許取得者の希望進路 (n=325)	教員志望	65.7
	非教員志望者	34.3
	計	100.0

2) 野外活動に対する意識

「野外活動は好きか」という質問に対して、「4.とても好き」から「1.まったく好きではない」の4段階で回答を求め点数化し平均値で比較した結果、教員志望者の平均値が 3.18、非教員志望者の平均値が 3.20 と両者平均よりも高い値を示し有意な差は認められなかった ($t=0.254$)。次に「学校教育において野外活動は重要か」という質問に対して「4.とても重要である」から「1.全く重要ではない」の4段階で回答を求めた結果、教員志望者の平均値が 3.35、非教員志望者の平均値が 3.20 となり、5%水準で有意な差が見られた ($t=-2.028$)。

3) 野外活動を行う教員に必要な資質

「野外活動を行う上で教員に必要な資質について 12 項目の中から選択を求めた質問に対する上位 5 項目の結果は、教員志望者、非教員志望者ともに、「野外活動や自然についての知識や経験が豊富にある事」を最も多くが選び、「責任感があること」「野外活動が好きである事」の順で多かった。全体的に、野外活動に関する技術や知識に関する項目が上位を占め、次に教員の人間性に関する項目、最後にプログラムの企画・運営に関する項目が重要視される結果となった。

尚、発表当日は結果及び考察のより詳しい報告を行なう。